

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 1月 25日

事業所名 放課後等デイサービス ゆめきら

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境 ・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	3	2	・パーテーション等で個室空間を作っている ・学習訓練と共有の場を隔てている	・外出活動や体を動かす機会を多く設けるよう工夫していく
	2	職員の配置数は適切である	4	2		・その日の人数に対して必ず基準人員での指導員を配置している	・基準人員は満たしているが、加配が必要な児童の利用の際に配置できる人員を確保したい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2		4		・スロープがなくポストの位置が児童の頭の位置にあるため、ポストの位置を動かし改善を行う
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	1		・モニタリングは6カ月に1度必ず行い、その都度個別支援会議を行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			・開所し、R5年度11月に初めて実施した。	今後は回答率が増えるようにアンケート方法を検討していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	4			初年度のため今回ホームページに公表を行う
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	1		現在、第三者評価を実施していない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			・年度初めに自分が受けたい研修申込の募集実施 ・実施後、職員へ通達と周知を実施している	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1			・今後はアセスメントツール（WISC・JSJ-R等）を実施・活用するように努める
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			・月の活動を定める際には、職員みんなで案を出し合いチームで立案できるように工夫している	・今後もチームでの立案を行い様々な意見を取り入れるよう努めていく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			・活動が固定化しないように外出・調理・創作活動・季節の活動などに振り分け設定している ・活動が偏らないようにチームで立案を行っている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			・指導案を作成し集団や個別での支援に配慮した支援を行うことができるようにしている	・今後も日々のSSTや担当職員を配置し、きめ細やかな支援が出来るように努めていく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			・指導案を作成し集団や個別での支援に配慮した支援を行うことができるようにしている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			・全員が出勤後、支援前に必ずミーティングを行い情報共有を行っている	

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		1		・その日のうちに気になる行動やSSTの気付きをメモして伝えるように改善していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			・半年に1度、必ず支援計画の見直しを行い、6カ月以内でも見直しをしたほうが良いと思う児童に対しては、早めの支援計画の見直しを行っている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	1			
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通したふさわしい者が参画している	5				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6				・今後も下校の際や会議・電話などで情報交換をこまめに行うように努める
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	3			・医療的ケアが必要な児童の利用はない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1		・児童発達管理責任者（今泉）が年度初めに行われる就学前支援会議に参加し、個別支援会議の際に情報提供を行っている	・個別会議の情報を共有できるように会議やミーティングを行っていく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4				・開所後、前例がないため判断できない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1		・蓮花の会の児童発達支援事業所「ほっぶすてっぷ」より支援の方法の助言をいただいている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3			・コロナ感染の状況を見て、他事業所の訪問や研修・交流等に努めます
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	4	1		・子ども支援部会に積極的に参加している	・自立支援協議会等に積極的に参加できるよう計画的な職員配置に努め参加していきます
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1			・モニタリングの際は困り感を聞き、ペアレントトレーニングや関わり方などについても提示を行っていく

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			・利用契約の際に児童発達責任者より必ず説明を行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6				・モニタリングの際や普段のやり取りの中で困り感を聞き、ペアレントトレーニングや関わり方などについても提示を行っている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1		・蓮花の会ファミリー会への案内を行っている	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			・管理者・理事長を含め対応できるように体制を整えている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			・月の行事予定表や子どもの様子を毎月プリントにて配布している ・蓮花の会HPにて日々の様子を掲載している ・来月の利用予約表に連絡先を記載している	
	35	個人情報に十分注意している	6				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	1		・ゆめきらに一周年記念を節目に交流を考えていきたい
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5				・防犯対応マニュアルについての再確認を行う ・保護者には周知していないため何らかの形で必ず周知を行う
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			・年に2回は必ず実施するようになった（ゆめきらでは2回実施済） ・長期休暇時等、定期的実施予定	・今後も定期的な避難訓練を実施を行っていく ・消防士の方に来ていただき防災学習・交流の機会を設ける
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1			・身体拘束をしている利用児はいません
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			・食物アレルギーの利用児には必ず指示書を持ってきてもらうよう保護者へ依頼している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			・ヒヤリハットがあった際は書面を作成し必ず会議を実施している	